

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100287		
法人名	医療法人 社団 帰厚堂		
事業所名	グループホーム 若園荘 2階ユニット		
所在地	〒020-0886 盛岡市 若園町8-11		
自己評価作成日	令和2年12月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市の中心、中津川に架かる上の橋から南に400メートル程の所に位置し、盛岡市内循環バス「でんでんむし」の停留所の正面に事業所があります。幼稚園、小学校、高等学校、武道館の社会資源にも恵まれた環境です。地域の特性を活かしながら、社会との関わりをもち、利用者一人ひとりが生き活きとした生活が送れるように努めています。町内会の一員として、地域の行事や集まりにも参加して皆様と交流を図らせて頂いています。子供会の資源回収や、町内会の朝掃除、道路沿いの植木の水やり、文化祭へ作品提供など、利用者様と共に参加させて頂いております。同法人の医療機関と連携を図りながら、防災意識を高め、利用者の健康管理を行い、安心して生活ができるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学校や運動施設など公共的な文教施設が集まる市街地の中心に位置しており、交通機関の利便性にも恵まれている。2階及び3階の各ユニットが独立した2ユニット制で、法人の理念「愛と誠の精神」のもと、3項目のホーム独自の運営方針を定めている。今年度はコロナ禍の厳しい環境にあるが、例年、町内朝清掃や子ども会資源回収、運動会やマンドリンクラブ訪問等、町内会や幼稚園から高校、ボランティア等地域と積極的に交流し、地域に支えられた施設となることを目指している。法人内の医師がかりつけ医として訪問診療を定期的に行っているほか、常勤看護師が健康管理全般、歯科衛生士が口腔ケアを行うなど、法人内医療機関との連携も充実し、利用者及び家族の安心感に繋がっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年1月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで理念を唱和し、職員の一人ひとりが理念に沿ったケアを実践できるよう、意識付けしている。※12月から感染予防にて各階で申し送りを行っている。	母体である医療法人の理念「愛と誠の精神」を基本に、職員の意向を踏まえながら若園荘としての3項目のホーム運営方針を定めている。毎朝のミーティング時の唱和や申し送りのほか、毎年度の職員アンケートを基に個人面談で意識の共有、向上を目指し、緊急時対応に職員の意見を取り入れるなど日々のサービス実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃活動や資源回収に職員が参加。今年はコロナの影響にて利用者はあまり参加できていない。町内活動も中止が多かった。	忘年会等に職員が参加するなど、町内会と積極的に交流している。現在は、コロナの影響もあり交流困難な環境にあるが、開設以来利用者を含めて参加している「毎月の町内朝清掃」や「子ども会資源回収」に、今年度は職員のみ参加としている。例年は、近隣の幼稚園や小学校・高校等(運動会・社会学習・マンドリンクラブ・読み聞かせ等で交流)が来所するなど相互に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は広報の発行も1回のみであり、感染対策をも兼ねてあまり活動はできずにいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も2回のみ開催。ほか2回は書面のみの開催で盛岡市へ書類は提出済み。	委員は5名で、地元及び隣接の町内会長のほか、民生児童委員、地域包括支援センター、住民代表で構成されている。開催時には事前に家族にも呼びかけを行い、順番で参加してもらっている。利用者の詳細な状況、行事や活動の様子、事故や感染症の対策について報告し、成年後見制度についての意見交換や災害時の近隣高齢者の避難受入れの提案等を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの影響により、地域連携会議も中止となっている。書類はネットより入手し閲覧している。不明点あればその都度相談している。	今年度は各種会議が中止となっているが、例年は、地域ケア会議の参加や市の地域連絡会議へ参加するよう努めている。介護保険関係手続きの際などに、メール・資料等で市担当課と相互に情報や意見の交換を行っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催、委員も各ユニットより選出し話し合いを設けている(3ヶ月おき)また、荘内の勉強会において全スタッフに身体拘束について周知を促している。	「身体拘束適正化のための指針」を作成している。各職員ごとに「自己点検シート(チェックリスト)」で振り返りを行い、職員から出された問題点に対し事業所としての見解を伝えている。3ヵ月ごとに身体拘束委員会を開催し、委員に相談・話し合いを行い、その内容を会議の場で発表し職員もその内容を共有している。高齢者権利擁護養成研修を受講するなどして、職員の資質向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識統一を図り、虐待の早期発見と防止に努めている。職員間でも利用者様の日頃の変化に気を配っている。内部研修で勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年はコロナの影響で外部研修は中止となったが内部研修にて身体拘束の事例を挙げて意見交換したり、勉強会のテーマとし知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、同意を得られるように時間をかけて説明を行っている。契約内容の疑問については納得して頂くまで説明、改定に関しては、文書でお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時、声をかけて意見・要望を聞きだせるような場を作っている。意見の内容はミーティングなどで報告し、職員間で共有している。	苦情ポストを玄関先に設置し、利用者家族が定期的に来所した際に意見・要望を聴取している。家族の意見は、馴染みの食べ物や手づくりの食事の提供に関するものが多い。2ヵ月ごとに居室担当者が写真同封でお便りを家族に郵送し、利用者の状況をお知らせしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が意見や提案を出せるような雰囲気作りを心掛けている。行事等の企画・立案は職員のアイデアを引き出し、反映させている。	管理者は、毎月の業務会議や勉強会、日々のミーティング等のほか個人面談の機会を通じ、職員の個々の意見の把握や職員相互の話し合いを行っている。レクリエーション等の担当係を決めたことにより、ユニット合同の意見提言も増え、西日への対応、家庭的な暖簾づくり、テイクアウトなど、各担当係単位の意見も意欲的に出されている。今年度は、コロナ禍の影響もあり、密を避けるためユニット単位の行事を主としながら、担当係単位で利用者を楽しんでもらう行事を工夫して行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談の機会を設けて、職場環境についての悩みや意見を聞き取りしている。またストレスチェックで個人の健康管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は外部研修が中止となっているが、同法人より講師を願い(AED研修など)を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の施設行事に参加する機会を持てるようにし、交流の場を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを大事に、家族からの情報を基に生活習慣や趣味を尊重、し安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の思いをくみ取り、本人にとって必要な支援について職員間で情報共有をしあう		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントと家族の要望・本人の思いを優先した支援と対応に努めている。他のサービスについても話すように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はさりげない言葉にも耳をかたむけ、傾聴するよう心がけている。出来る事にも目を向けやりがいを感じて頂けるように、また「自立支援を」を意識したケアの実践につとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年はコロナの影響により、来荘も少ないが連絡を必要に応じて取るよう心がけている。また担当者が2ヶ月に1回、様子を文章にてお伝えするようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は外部との交流もできない為、さまざまな工夫を行った。敬老会での家族様からの動画メッセージやクリスマス会での少年少女合唱隊からのDVDなど。	例年は、コーラス・折り紙等のボランティアや美容師の定期訪問がある。今年度は、理美容訪問のほか、敬老会での動画メッセージやクリスマス会での少年少女合唱隊からのDVDなど、直接会わなくとも出来る方法で交流している。ドライブによる自宅訪問やアクリル板越しやオンラインでの友人・家族との面会等、工夫を凝らしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい利用者には、ゲームなどレクリエーションや行事等を通し、利用者間の交流が自然にできるよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、転出先との情報交換を行い、関連施設訪問などの支援に努めている。		

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の「やりたいこと」を尊重し、実現できるような環境を作っている。困難な場合は利用者が出来る内容を提供するよう努めている。秋には希望を聞き、お寿司をテイクアウトし好みのものを召し上がって頂いた。	利用者の約半分程は思いを表現できるので、利用者との会話や利用者同士の日々の会話の内容、利用者の表情などから、職員がその思いを読み取るよう努め、内容を職員間で共有している。食事やおやつ、入浴の際などに、職員から声掛けをして、利用者の希望を活かし喜んでもらっている。(例:ワイン・チーズ・コーンスープ・ひつまみ・筋子等、個別の好物を提供)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、介護支援専門員からの情報から生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身状態の変化を見逃さず言動や行動などを記録し職員間で情報共有と現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、看護・介護双方からの意見を反映させ、本人・家族の意向と状態の変化に合わせた介護計画を作成している。	利用者ごとの担当者の意見のほか、常駐看護師・歯科衛生士の医療面からの日常的意見も踏まえ、ケアプランを3か月ごとあるいは随時に見直している。介護の評価やモニタリングの結果を、毎月「カンファレンス」での協議を通じ振り返りを行っている。プランの変更は、家族の意向も踏まえて作成し、郵送等で同意を得た上で確定し、利用者の現状に沿ったケアプランとなるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子と実践・気づきを個別に記録し、情報共有している。また「カンファレンス」では結果や工夫が活かされ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で面会制限などもあり限られた生活が続いており柔軟な支援(外出。買い物)などが難しかった。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流も限られた年であり、予定していたことも中止となった。リモート面会やメッセージ動画同じく発表の場が無い合唱団のDVDなど今までにない対応が必要となった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は法人関連診療所となっており、入居時に家族から了解を得ている。定期的な往診により、日常の健康管理と状態の変化が可能となっている。	入居時に家族に説明・了解の上、全員が法人関連の協力医をかかりつけ医としている。各階ごとに、毎月1回訪問診療を受診している。内科以外は、診療内容に応じて職員が同行し、近隣や従前の通院外来を受診している場合もある。歯科衛生士が口腔ケアを行い、日常的な健康管理を常勤看護師が対応するなど、法人内医療機関との連携も充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りやカンファレンスへの参加など日常の関わりの中で情報を看護師に伝え、必要時相談している。利用者の受診や看護が遅延せず受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中に訪問し、病院関係者との情報交換を蜜に行い、早期退院ができるよう調整や支援に努めている。また同法人病院の強みを活かし関係強化を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や同法人病院との連携をとっており、早めの受診や相談ができている。今年も終末期をホームで過ごされた利用者はいないが、入居時の意向確認は行っている。	これまで看取りの実績はない。主治医の判断で病院と連携し、基本的には医療行為を必要とする段階で入院することとしている。看取りに関する指針を有し、法人の母体となっている医療機関との連携の下で、医師や看護師が早期に対応できる体制を整えている。家族には、利用開始時に終末期に向けた事業所としての方針を説明しながら意向を確認している。状況の変化に応じ看護師から家族に情報提供している。法人内の他の事業所で看取り経験を有する職員が数名おり、経験談を話してもらい、意識啓発に努めている。	

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED訓練やコロナ発生時の防護服の着用訓練など内部研修にて実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画と合わせて防災マニュアルを作成し、定期的な避難訓練を実施している。地域の方々との協力を得る努力はしている。	日中と夜間を想定した訓練を、年2回実施している。水害を含めた「防災マニュアル」を作成し、法人内連携の下で備蓄も行っている。定期の訓練に加え「ミニ訓練」を繰り返すなど、避難困難な市街地での災害時対応力の向上を普段から心掛けている。避難階段利用のリスク対策として、管理者は担架の活用や地域との更なる連携強化が必要としている。	2階及び3階居室からの避難方法など、消防署等と確認協議の上、避難時の一層のリスク軽減策を検討するとともに、市街地の住民減少や高齢化による難しさはあるものの、発災時に近隣地域からの協力を得ることが出来る仕組みづくりが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し生活暦に合った声かけを心がけている。スピーチロックにならないよう内部研修など行っている。気になったことは身体拘束委員に相談している。	ホームの運営方針として、「一人の人として尊重し、あなたの思いに応えられるように学び続ける」ことを掲げ、各利用者の生活歴や性格等に応じた声掛けを行っている。食事時間や部屋食対応等、個々の状況に応じて自己決定しやすい言葉かけに留意している。研修受講や自己点検シートの活用を通じ、スピーチロックを含め、個々の利用者を尊重した対応を実践するよう、事業所全体として意識的に進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択による楽しみの機会を多く持つような関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意向を汲み、食事を居室に提供、また食事時間をその人のペースに合わせて提供など実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・爪きりや髭剃り等意識して実施 希望により訪問美容でヘアカットを行い身だしなみ支援に繋がっている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付けや片付けを一緒に行う事で毎日の役割が楽しみに繋がっている。今年はテイクアウトを利用し、食事への楽しみが出来るようにしている。	法人の栄養士が1週間分の献立表を作成し、ユニット単位で発注・調理している。下準備、テーブルふき、後片付けなどを一緒に行う利用者もあり、花見時のちらし寿司づくり、ひつまみやおやつづくりなどにも、楽しみながら参加している。今年度は、テイクアウトやデリバリーも利用し、家庭的食事のほかに、多様な食を楽しむ機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況に合わせた食事量・水分量が確保できるよう提供している。食事量が少ない場合捕食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助にて口腔ケアを実施している。必要に応じて仕上げ磨きを実施している。週2回の歯科衛生士の訪問を継続し連携を取っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。また、下肢の筋力向上を目指した訓練を取り入れトイレでの排泄自立支援を行っている。	日中は、殆どの利用者は自分でトイレに行っており、車椅子の場合も介助しながらも自分の意思での排泄を促している。可能な限りトイレでの排泄を目指し、現状を維持する上でも、レクリエーションを楽しみながら筋力の向上訓練を行っている。夜間は、ポータブルトイレの利用者もいるが、見守り支援を基本にしながら、定時の声掛けによる排泄誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れている。ヨーグルト・きな粉・オリゴ糖・おし麦)また水分摂取量を多くとる工夫、野菜ジュースなど。また適度な運動を日課に組み入れるなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	可能な限り希望に沿った入浴を前提としている。入浴拒否のある方には、興味を引くような声かけ無理強いをしないこととして支援している。	週3回、1日3人ずつの入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者はいないが、状況に応じて支援する職員を臨機応変に代えている。着脱可否、入浴時間や洗い方など各自の習慣・状況に沿って自然な形で入浴できるように工夫している。入浴時には、好きな音楽や花の飾りなど楽しい時間となるように対応し、職員との会話の中で利用者個々の希望の把握に努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その方の生活習慣に合わせた安眠や、リビングでの休息を実施している。夜間照明で安眠の妨げとなる場合はのれん等で工夫し証明の調節を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的・副作用は調剤薬局から発行の薬剤情報をファイル化し活用している。また症状の変化等は看護師と連携し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の楽しみ等気分転換の支援は、外食、レクリエーション・毎月の行事などを実施している。今年はコロナの影響にて各ユニットで楽しむ工夫を行った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は外出は自粛したが、時々ドライブや散歩を行っている。季節の移り変わりを体験できるよう少人数でのドライブや散歩を意識し行った。	コロナ禍での外出は厳しいが、天気が良ければ職員と一緒に近所の小学校周辺等の散歩や書類を届けに市役所へ一緒に出掛けるなど工夫している。紅葉時には、季節に応じて街中を少人数でドライブや散歩し、写真撮影や自然に親しむ機会を創っている。制限がある中、花見、土いじり、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマスなど、室内でも楽しめ身体を動かせる催しを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの意義は理解しているが、実際に所時の希望はなく、施設管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は家族に電話をかけるなどの手伝いをして、柔軟に対応している。家族様も協力されている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温室時計完備、季節に合わせた装飾(居間中心)利用者力作の折り紙掲示など冬場は加湿器、の設置などを行っている。今年は特に換気に注意している。冬季も利用者様の状態をみて実施中。	1階には事務室、相談室、ボランティア室があり、2階・3階がそれぞれ9室の2ユニットとなっている。ユニットの中心に居間・食堂があり、周辺部に各居室が配置され、往来しやすい環境である。温湿度計や加湿器などを備え、コロナ禍の折特に配慮している。七夕飾りやクリスマス、正月などの季節に応じた飾りや作品の展示を行っているほか、お祝いの会にはカーネーションやベゴニアの花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な環境として、昔ながらの棚を置いたり、日頃の活動写真や、作品を飾ったりしている。また、季節を感じるような飾り付けを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真・家族手作りのタペストリー・作品などを飾り、自分だけの空間の工夫をできるだけしている。	各居室の入口には職員手づくりの多様な暖簾が下がり、室内にはベッド・収納・洗面台・チェスト・掲示ボードが備え付けられ、家族写真や賞状(感謝状)、折り紙などが飾られている。簡素で清潔感があり、自宅に居るような安心感を持てる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りとして、居間・廊下・トイレなどに障害物は置かない、整理整頓を心がけている。		